

すぎなみ大人塾

講演

# 「学校は株式会社が変わる！ インターネット高校」

(株)アットマーク・ラーニング 代表取締役

日野 公三 さん

日時：2006年3月1日(木)

会場：セシオン杉並 視聴覚室

## 【プロフィール】

1982年、岡山大学法学部経済学科卒。リクルートに入社後、29歳で独立。第三セクター再生の仕事に携っていた当時、教育現場においての不登校生の多さに着目し、1999年アットマーク・ラーニングを設立し、インターネットハイスクールを立ち上げる。翌年にはアットマーク・インターハイスクールを設立。2004年、国の構造改革特区認定を受けた美川特区アットマーク国際高等学校を設立し、生徒の自学自習力の育成を目指して運営している。主な著書に『インターネット教育革命』(PHP研究所刊)、『ティーチングからコーチングへ』(BNN新社刊)がある。

本日は「学校は株式会社が変わる！」という、ちょっと大げさなタイトルをいただいておりますが、これまで私がやってきたことしかお話できませんが、お時間をいただき、ありがとうございます。

1990年代に、地球に隕石が落下したような衝撃をもって、インターネットが世の中に登場します。インターネットを使った学校づくりは、今を生きている私たちの課題ではないか、と私は考えました。産業革命のように大きな歴史の転換はいろいろありますが、史上最大の革命はインターネットであると、私は信じて疑っておりません。そういった観点から、新しい学校づくりの話を聞いていただきたいと思います。

学校をつくる権利、教育を受ける権利を、私たち納税者に取り戻すこと、それが私自身の基本的なコンセプトです。私たちは、もっと税金を払っていることを意識して、本当の教育とはどうあるべきかを考える必要があるのではないのでしょうか。現在、私どもは、いくつかの学校を運営しています。ひとつは「美川特区アットマーク国際高等学校」で、英文名は“ At mark Cosmopolitan High School ”で、あえて“ Cosmopolitan ”という言葉を入れました。また「アットマーク・インターハイスクール」は、日本国内では無認可の扱いですが、アメリカ・ワシントン州教育委員会が認定する通信制の高等学校です。さらに、不登校になられた中学1年生と2年生を主な対象とした「PREP塾」という塾形式の学校も運営しています。中学校に席は置いているが“ 学びの環境がない ”生徒たちを救いたいと思い設立したものです。また、東京都の認可を受け、日本ホームスクール支援協会というNPO活動も行ってい

ます。それでは、これから、具体的な内容についてお話をさせていただきます。

自己紹介から始めます。私は岡山大学を出た後、リクルートに入社し、リクルートブックの広告営業に携わりました。当時は、日本電電公社がNTTとして民営化されるかどうかという段階で、一般市民が通信技術に関心を寄せ始めた頃です。通信技術は、主に軍事技術として発展しており、ソ連とアメリカが対立していた冷戦時代には、公衆回線は、一般国民が自由に利用できるものではありませんでした。しかし、東西冷戦がなくなり、通信技術は民生分野に広がり自由に使えるようになりました。それは、1983年から1986年にかけての時代です。ちょうどその頃、当時リクルートの社長だった江副さんの発案で住宅情報オンライン事業部が立ち上がり、そこへ配属されました。パソコン通信を使って街の不動産屋さん、スーパーコンピュータに蓄積された不動産物件のデータを提供していく仕事でした。その時に、いまでいうところのITに触ったというか、触りかけたわけです。

私は、23歳の時に29歳で独立しようと考えました。リクルートの文化に染まって一生勤め上げるという会社ではない、というのが常識的なリクルート社員の発想です。起業しようなどという考えは元々はなかったのですが、リクルートの銀座本社に勤めるようになって洗脳されたのか、そういう気持ちになっていきました。当時まことしやかに“リクルート3年除隊説”というものがささやかれていました。自衛隊で訓練を受けて除隊するかのよう、リクルートで3年過ごしたら飛び立ってゆくものだという感覚がありました。リクルート以外で、どれだけ自分が通用するものなのか試そうと考え、一端リクルートを辞め、経理や経営の勉強をしました。そして1988年には、自分の会社を立ち上げました。場所は神楽坂、企画会社です。まだ、ライフワークなどというところまでは思い浮かびませんでした。私のできることはITに関わることです。当時すでにパソコン通信には個人的に触れ親しんでおりましたので、それを使って何かできないかと考えたのです。オムロンやNECからパソコン通信の企画の仕事を受けたり、オムロンのモデムの開発の仕事などをしたりしておりました。

やがて1994年、神奈川県が大株主のKネットというパソコン通信会社からの仕事が舞い込みます。これは、行政が旗振りをした地域ネットで、民間企業も50社ほどが出資し、資本金1億で1992年に設立されたものです。第3セクターの走りのような存在です。この会社の再建計画をまとめることが仕事でした。この会社は生き残れるかどうか、当時の長洲知事の前で再建計画を提示することになり、私は生き残れると判断し、再建の条件として、知事に増資をお願いしました。そしてKネットの担当取締役役に就任し、計画の実施に取りかかりました。ここに5年間在籍しました。その縁で、県の教育委員会からも仕事をを受けたり、教育センターのデータベースの構築やパソコン教室運営のマネジメントなどにも関わりました。そのうち、学校をつくりたい、自分で経営してみたい、と考えるようになりました。その頃、取締役の他に教育事業部長を兼務しており、1997年、その事業の一環として「インターネットハイスクール風」という日本でインターネット高校を設立しました。鎌倉にあったフリースクールと提携し、私たちKネットが広報と生徒集めをして、教務指導はそのフリースクールが行うという協業です。この事業では、うまくいったなと思える面もありますが、課題も多々あることを実感しました。そして、これを本業にしたい、生涯の仕事にしたいと考え、1999年、現在の会社であるアットマーク・ラーニングを設立するに至ります。

インターネットを活用した学校経営はアメリカが本場です。そこで、アメリカのネットによるホームスクール事情を調査しようと考え、3か月ほど、日本とアメリカを行ったり来たりの生活が続きました。当時、アメリカには、ネットスクール、オンライン・ハイスクールとかEスクールと呼ばれるインターネットを活用した学校が120校ほどありました。あちこちを視察した結果、シアトルの、マイクロソフトの本社近くにあるオンライン・ハイスクール「アルジャー校」と提携することになりました。そして、

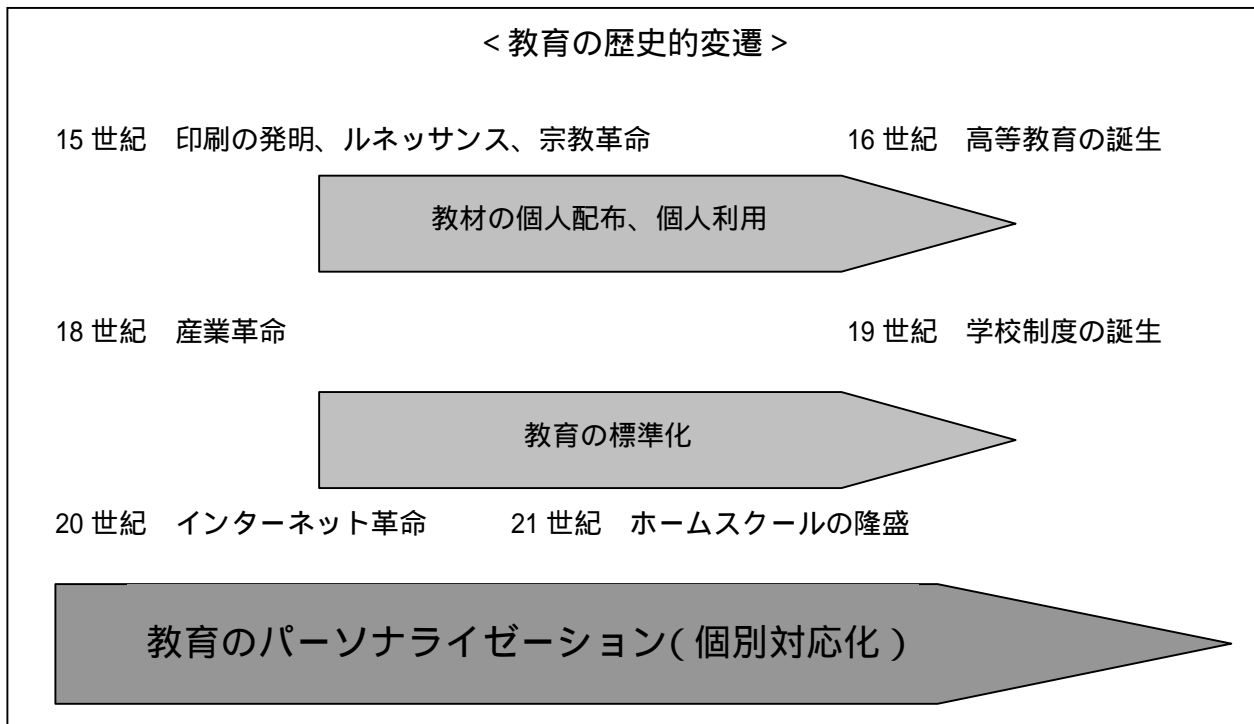
ワシントン州の高校卒業の単位が出るような枠組みをつくりました。

2000年には、日本国内では無認可ですが、通信制の「アットマーク・インターハイスクール」を設立しました。さらに2004年、日本国内でも正式な高校の単位を取得（発行）できる「美川特区アットマーク国際高等学校」を設立しました。私は社長兼校長です。

会社は、現在、品川のソニー本社の近くに 있습니다。私が代表で、うるさ型の非常勤役員がたくさんいて、脇を締めていただいております。銀行系のベンチャーキャピタルの方、元マイクロソフト日本社長の成毛眞さんなどが名を連ねています。私の経営の恩師である元ソフトバンク会長の大森康彦さんなども経営アドバイザーとしてご支援いただいております。

私は、いまだに教育という言葉に馴染むことができません。この世の中から教育という言葉がなくしたいと思うくらいです。学習という言葉の方がしっくりきます。3年前に「ティーチングからコーチングへ」(BNN 新社刊)という本を出版しましたように、ティーチよりコーチ、学習支援という形で学校経営をしていきたいと考えています。

1996年に学校をつくりたい、学校経営をライフワークにしたいと考えた時、実現までには10年は要すると思いました。すでに3つの学校と塾を運営していますが、これまでにさまざまな本を読み、数多くの方にお会いしてアドバイスもいただきました。アメリカ中もかけめぐりました。その結果、思い至ったのは、教育というのは時代によって変わるものだということです。



教育が大きく変化した時代として3つ挙げました。15世紀の印刷発明、ルネッサンスなどがもたらした影響は、16世紀の大学の誕生です。それ以前は教会が学校に代わるものとして存在していました。学校ができる前、聖書は教会にしかありませんでしたので、教会に行かないと聖書は読むことも触れることもできませんでした。聖書は当時、最高の教科書といわれました。印刷初面により、その教材である聖書の個人配布、個人利用が可能になった。だれもが聖書を持つことができるようになり、聖書を持って集まり、勉強をすることも可能になりました。そしてドイツに、いまでいう大学のような高等教育機関が誕生します。歴史を遡ればギリシャにも学校はありましたが、現代につながる学校というものがで

きたのは、これが最初だといってよいでしょう。

18世紀には産業革命が起こります。それを受けて19世紀にはイギリスで義務教育制度が誕生します。それ以前のイギリスでは、英語が国語ではなく、さまざまな言語が使われていました。それが、義務教育により英語の標準化が行われました。また、イギリス国民という国民意識も希薄でしたが、義務教育の誕生で国民意識も高揚しました。

そして20世紀末にインターネット革命が起こります。これにより、今後何が起こるのか？ 自宅が学校になるであろう、というのが私が1996年に定めた仮説です。一箇所に集合して一斉に授業を受けるという形態は、学びの形態のひとつでしかなくなるだろうと思います。行く先々が学校になる、というビジネス上の仮説でもあります。1996年、97年ごろに、アメリカで続々とホームスクールが誕生するのを目の当たりにして、ピンとくるものがありました。最近では、“ロード・スクール”という言葉も使われるようになりました。学校に通わず、キャンピングカーで全米を移動しながら学ぶ人たちが、すでに10万から20万家族もいるといわれています。ちなみに、ホームスクールは全米で160万世帯から200万世帯といわれます。小学校、中学校に通わずに自宅を中心にITなどを活用して学習している人たちが、20家族に1家族の割合で存在しているという計算になります。こういう状況を、私は「教育の個別対応化」あるいは、「教育のパーソナライゼーション」と呼びたいと考えています。教育の個別対応化とは、カスタムメイドといいたいでしょうか、洋服と同じように、教育においても、子ども一人ひとりに合わせて対応していく時代が、いま確実に到来していると考えています。

元々私は教育に関する門外漢でしたが、教育に関して学んだり、情報を集めたりする中で、触発された言葉がいろいろあります。

### < 私がインスパイアされた言葉、概念 >

(アメリカのホームスクールの親たちの発言より)

ホームスクールは教育の基本に還る動きである  
社会性とは、同学年の中だけで育つものではない  
学力は、点数評価の中でのみ測定できるものではない  
学力の評定 「ポートフォリオ評価」  
テクノロジー（インターネット）の活用  
「学校をつくる権利は納税者にある」  
タウンスクール、フリースクール、オルタナティブスクールの歴史と伝統  
「教育は国・学校にあるのではなく、親にある」  
すべての州でホームスクールが正式認可

最初の「ホームスクールは教育の基本に還る動きである」と書きました。アメリカで1980年代から、学校へ（積極的に）行かない人たちが増えてきたのかということ、保護者の側に、教育の基本は家庭であり親であるという意識が強くなってきたという背景があります。一方で自宅にいると社会性が育たないという指摘があります。それに対する反論として、社会性とは同年代の中で育つのではない、もっと幅広い人たちと触れ合うことで社会性が育つというものがあります。また、学力は点数評価のみで測定できるものではない。これに対しては、多くの方が賛同してくださると思います。学力の評定として「ポートフォリオ評価」というものが出てきました。ポートフォリオとは、建築の世界では作品集という意

味で使われますが、履歴ととらえてよいでしょう。1回限りのテストで評価されるのではなく、高校3年間の生活の中で作り上げてきた成果物、履歴でもって評価するのがポートフォリオ評価の考え方です。

テクノロジー、特にインターネットの活用に関しては、日本では、いまだに危険視する向きも少なくありません。教育上好ましくない、とおっしゃる方も結構多いのです。アメリカでは、私が見聞したかぎりでは、そのような意見は聞くことがありませんでした。今ある道具の中で良いものを、学習のためにどんどん使おうというのがアメリカです。もちろんマイナス面もありますが、そういう部分は、みんなで創意工夫して、マイナス面が顕在化しないように対処しようと、積極的にとらえる向きが多いと感じました。

「学校をつくる権利は納税者にある」という言葉に、最初は違和感を覚えました。かなりショッキングな表現です。アメリカでは、元々公の機関（行政）が学校をつくるということは少なく、プライベートスクールが大手を振っています。教会が学校であった、という歴史的な背景もあります。また「教育権は国・学校にあるのではなく、親にある」と書きましたが、私は、世界中の教育基本法について調べてみました。その結果、日本の教育基本法はかなり特殊なものであることが分かりました。ヨーロッパの教育基本では、教育権は親にあり、国は過度に侵害してはいけない、という考え方が中心です。イタリア、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、フランスなどです。イギリスはちょっと違いますが…。日本では、教育権に関しては、国と現場の先生たちがいがみ合うという構図がありました。日教組などは教育権は国や行政にあるのではなく教師にあるという考え方です。しかし、欧米では、教育権は親にある、というのが一般的であるように思われます。まあ、これに関してはさまざまなご意見があるようなので、ここで深くつっこんで意見をいうのは避けます。

## 1. 事業を始めた動機

- ・ パソコン通信会社経営時代に不登校生に出会った
- ・ 自分にも不登校の実体験があった
- ・ 米国出張でホームスクールやネットスクールを知った
- ・ 社会的ニーズの強さに大きな市場を予感した
- ・ サービス業として遅れた学校分野に民間企業の発想が活かせると考えた

現在の事業を始めた動機はひとつではなく、ここに列記しましたように、いろいろあります。そして、一生をかけて取り組むにふさわしい事業ものだと考えました。1996年に学校をつくりたいと考えてから、今年ちょうど10年目を迎えました。いまだにやることがたくさんあり、80歳になってもいくつも課題を抱えていることだろうと思います。一生かけても解決できない多くの課題が横たわっています。

では、ここで、アメリカのネットスクールをスライドで紹介しましょう。アメリカには現在200以上のネットスクールがあり、いくつか実際に見学してまいりました。これは、ケンタッキー州にあるネットスクールです。校舎はありますが、ここに通ってくる生徒はほとんどいません。校舎は鉄道の駅を改造したものです。この学校は兄弟5人で経営しています。彼らはインターネット教材とプリント教材を

つくり、全米の州の教育委員会に売り込んでいます。アメリカには、学期中に取れなかった単位をとるためのサマースクールという制度があり、市場としてのサマースクール・マーケットがあります。これらの教材は、このサマースクール・マーケット向けのもので、大きな収益を生んでいます。キーストン・ハイスクールというネットスクールも併せて経営しています。

あちこち視察して結果、私たちはシアトルにあるアルジャー校と業務提携をすることに決めましたが、その理由のひとつとして、シアトルは元々日本人がつくった街ということ。余談ですが、野球選手のイチローのシアトルでの高い人気の背景にも、そういう歴史が関係していると思います。写真は、本社兼教務施設ですが、このようなログハウスが3、4か所あります。すべて、学校のスタッフと生徒、その親たちの手作りです。

## 2．起業のときに気がついたこと

### もっとも苦労したこと、それをどう乗り越えたか

起業の際に気がついたことは、自分自身が本気で打ち込むことができるか、そして楽しむことができるか、この2つです。いろんな苦労が待ちかまえているだろうけれど、それら苦労を楽しむことができるだろうか。自分の内面を見つめる作業でしたが、その作業は現在に至るまで続いています。一人で立って業を起こすことは、大変なことだと思います。よく生徒たちにいうのですが、高校・大学というのは飛行訓練のための期間である。やがて飛び立ち、一人で空を飛ばなくてはなりません。自分で空を飛び、エサをとってこななければなりません。時には風向きも変わりますから飛び方も変えなければなりません。さまざまな状況に打ち勝ち、立ち向かっていけるかどうか、自分自身を見つめる作業かな、と思います。このビジネスは儲かりそうだからとか、みんなでやっているものだからとか、そういった発想ではつらいものがあると思います。もし、思ったようにいかないとき、そういった発想では対処ではないからです。いかなる状況になっても、自分が打ち込めるかどうか、楽しめるかどうか、この2つが大きなカギだろうと思います。

## 3．続けること：生き残るためのポイント

### ステイクホルダーの支持をどう取り付けたのか 事業のむずかしさ、よかったこと

事業を続けていくためには、それを支える人が必要です。従業員、役員、株主(出資者)が銀行など、ステイクホルダーの支持をどうどうとりつけていくか、それが最大のカギだと思います。もちろん、“ひとり企業”という形態もあります。自分のできる範囲で、持てるスキルとテクニックだけで生きていくということも、業の在り方としてはあるでしょう。しかし、その場合でも周囲で支えてくれる方たちがいます。その方たちの支持をどう取り付けるかは重要です。これに関しては、コツといったものはないと思います。自分自身が事業に打ち込み、楽しんでいる、周囲の人が、その姿を見て、この人間は支えるに足る人間なのかどうかを判断するものだと思います。

事業を始めてよかったことといえば、いま開校6年目を迎えたアットマーク・インターハイスクールは卒業生が150名、アットマーク国際高等学校は、開校1年半で在籍者が350名ほどおり、間もなく50名ほどが卒業します。つまり200名ほどの卒業生を送り出したことになります。一人ひとり、入学時から卒業時までいろいろな人生ドラマを見せてくれます。入学して大きく変わる生徒が1割から2割程度います。そういう生徒たちを見るのが何よりの楽しみで、この事業をやってよかったと思います。自分のためだけでなく、人様の役に立っている。何よりも、多感な時期の高校生たちが、様変わりをする。それを見るのが楽しいですね。極端な例ですが、小学4年生から中学3年まで、ずっと引きこもっていた生徒たちがいます。彼らが私どもの学校に入ってから人生が変わり、海外留学した子もいます。ずっと引きこもっていたとは思えない、社交的で外向的、営業センスを身に付けた生徒を見ることも珍しくありません。

株主や銀行などのステイクホルダーとどうつきあうか、究極的な言い方になりますが、できるだけ楽しませることではないでしょう。アットマーク・ラーニングという会社に関わってよかったとだけ思っているようにすることだと考えています。抽象的な表現になりましたが、この会社おもしろうだよ、とか、あの社長はぶれないよ、とか、いつも楽しそうにやっているね、など。もうひとつ大切なのは、夢を与えることです。よくいいますが、ベンチャー企業は“俳優さん”のようなものです。芸をもって楽しませ、その気にさせなければなりません。一緒に船に乗って航海をし、新しい大地を発見しましょう...そういう想いをいかに共有できるか、ということだと思います。

学校の話に映ります。2004年4月に、国内初のネット高校である、アットマーク・インターハイスクールを設立しました。カリキュラムは米ワシントン州の通信教育課程です。驚くことに、教科書は検定教科書ではありません。検定制の教科書は日本と韓国、中国と北朝鮮だけだといわれています。ワシントン州の場合は極端で、教材探しも生徒自身がやらなければなりません。たとえば、英語は3単位で450時間ですが、それをどう使うかは、生徒一人ひとりが考えるのです。ある生徒はNHKのラジオ講座を150時間聴いて基本単語を450語取得するという目標設定をして記録をつけていきます。最後に作り上げたノートを提出して評価をおおぐという流れです。また、ある生徒は3か月間、ニュージーランドでホームステイをして、不自由なく日常会話を話せるようになるという目標設定をします。日産自動車の経営改革の際に、社員一人ひとりが自分の目標を決めるセルフ・コミットメントという方式をとったと聞きましたが、教育の場合にも同じです。人から与えられた目標ですと、押しつけられたという感覚があり、身に付きません。教科書に書かれていることを覚えるのではなく、3か月後にこうなりたい、という目標を描き、そのためにどのような教材を使い、1日をどのような時間配分で学ぶのかを決めるわけです。とはいいいましても、わずか15歳で、こんなことのできる生徒はそうはいません。実行困難なことを前提に、コーチがフォローします。進捗状況を尋ねたり、相談にのったりするわけです。私たちはプロとしてサービスを提供することを約束しています。そこで、学習コーチングのスキルを、アメリカで研修を受けて身に付けてきました。目標を立て、それを実現するのはコーチ次第という発想です。

< 卒業必要単位 >

	科目	学習内容の例	単位	時間
必修科目	英語	リーディング・ライティング、スピーキングなど	3	450
	数学	代数幾何・基礎解析など	2	300
	科学	化学実験・植物の研究、昆虫研究など	2	300
	時事問題とその背景	時事問題の研究・日本とアメリカの議会制度の違いなど	1	150
	米国の歴史	西部開拓史・南北戦争など	1	150
	アメリカ合衆国北西部の歴史	ワシントン州史・州知事史など	0.5	75
	フィジカルエデュケーション1(実技)	スポーツジムで水泳、犬の散歩1時間など	1.5	225
	フィジカルエデュケーション2(健康科学)	ダイエットの研究、スポーツ心理学、スポーツ医学など	0.5	75
	日本の歴史と古典	源氏物語	1	150
	ファインアート	美術(絵画・彫刻・陶芸・他) カリグラフィーデザインなど 美術史	1	150
実務教育	アルバイト・ボランティア活動・プロジェクト推進・ビジネスプランとその実践・家事手伝いなど	1	150	
自由選択科目	体験学習	天体観測・キャンプ・世界旅行等の実体験とその分析と評価	4.5	675
	環境学習	山・河・海・地中等さまざまな自然と対峙し、自然を思いやる活動及び調査等		
	コミュニケーション学習	インターネットを利用した遠隔地、異種文化圏の人達との交流と認知、幅広い年齢層の人達とのコミュニケーションを通じた家族史などの調査、地域での祭りへの参加などローカルな活動・社会奉仕		

米カリキュラム終了後、米国提携校による審査で米ワシントン州公認の卒業資格取得可能  
(飛び級や海外校単位への振替などフレキシビリティも備えている)

宮沢賢治は岩手県の農学校で7、8年間、教師をしていました。芥川賞作家の畑山博さんが「教師 宮沢賢治のしごと」(小学館ライブラリー)という本を書かれています。内容がとても楽しいのです。当時の賢治に教えを受けた生徒たちは現在 80 歳を越しておりますが、畑山さんが、その人達から話を聞いたところ、他の先生の授業はすべて忘れてしまったけれど、賢治の授業は今もよく覚えているというのだそうです。極めつけの授業というのは、黒板に、神社の注連縄の絵を描いて、生徒たちに、それが何を表わしているかを考えさせたものです。ある生徒は雲だといい、またある生徒は雨や雷だといいます。それを聞いて賢治は、雷が落ちたところには窒素が多く残るので、よく食物が育つんだよ、と生徒に説明します。信じない生徒を連れて、賢治は教室を抜け出します。よく雷が落ちるといふ農家に行ってみると、たしかによく農作物が育っている。さらに土を掘って窒素の濃度を測定してみると、生徒たちは、農作物を育てるには窒素が不可欠だということを身をもって学びます。そして、神社にも出かけて神主さんから注連縄のいわれも聞いてみる。賢治はそんな授業をしていたのです。

私たちも、基本的に同じ発想で教育をしています。生徒たちが強いインスピレーションを受けないと学習したことが身に付かないと考えるからです。



学校設立の準備を始めたのは、2002年頃です。ちょうど当時、小泉内閣で「構造改革特区」をスタートするという話を耳にしました。特区というのは、自治体がこういうことをしたいと、直接内閣府に申請して認めてもらうことです。教育特区で一番話題を呼んだのは、株式会社の参入ということです。石川県の美川町（現在白山市）の町長さんが、話に乗ってくださり、中学校を貸し出しますから本校に下さいとおっしゃってくださったので、賃貸契約を結ぶことにしました。通信教育でも本校の存在が必要なのです。面積も決められていて、延べ面積1200平米の校舎がないと通信制の高等学校は設置できません。また、土地は自前でなければなりません。1950年代からの設置基準です。それが特区でとりはられ、自己所有でなくとも構わないということになりました。また、株式会社の学校設立も認められ、カリキュラムもかなり自由に設定できるように緩和されました。この教育特区の制度を利用して、2004年3月に内閣府より構造改革特区（学校）認定を受け、その半年後の9月に学校設立にこぎつきました。短期間なのに、やることは山ほどあり、結構大変でした。不眠不休の半年間でした。毎週のように石川県に通いました。朝4時に起き、7時20分発の飛行機に乗り、1時間後に小松空港着、レンタカーを走らせて9時には美川町へ。あちこちの機関に通ってさまざまな申請書類を作成しました。行く先々で文書を修正するよう指導を受けたりもしました。

アメリカの通信制高校についても触れておきます。全米で、約200のネットハイスクールがあります。フロリダ、イリノイ、ケンタッキー、ミシガンなど、州の教育庁が運営しているネットスクールさえ存在します。行政主体のネットスクールということで、生涯学習の趣があります。特にフロリダ州には2万人ほど生徒がおり、州の住民は受講料が無料です。ラテン語とかスペイン語の授業が人気です。卒業証書はいらないけれど、この科目を受けたい、この先生の講座を受けたいというニーズは、日本でも高まっており、私どもでも科目等履修生が増えています。すでに高校は卒業したけれども、アットマーク高校のネールアートの授業を受けたいとかの希望者がいます。

ただ、学校の設立の経緯は順調ではありませんでした。特区という地域おこしが主眼ですから、全国から生徒を集めるのはいかなるものか、といった意見があったからです。内閣府の特区推進室をあげての議論がありました。全国的に、このような学校の設立を望むニーズは多い。美川から全国に発信して、ニーズに応えたいと訴えました。また、年に25日ほど開かれる美川でのスクーリングには、全国からできるだけ多く、生徒を呼んでくることも約束しました。もちろん、入学式も卒業式も美川で行います。

本校は、美川中学校内にあり、空き教室2つを専用教室としてお借りして、警備保障会社と契約したり、さまざまな契約を結びました。中学校との交流もあり、よい雰囲気運営しています。教室にはパソコンも搬入してありますが、現在のところ、まだあまり活用されていないのが残念です。生徒たちも、美川中学周辺の生徒はまだおらず、石川県では、金沢市周辺の生徒がほとんどです。金沢市へは車で45分くらいかかりますので、ちょっと不便です。そこで金沢市内に金沢中央キャンパスというのを設置して、月曜日から金曜日まで通えるようにしました。

せっかく株式会社で設立したので、さまざまな業界で活躍しておられる方に教壇に立っていただいたり、ネットで授業をしていただくよう考えました。29歳でIT関連の会社を立ち上げた人、ラジオのパーソナリティなど、特別講師の顔ぶれは多彩です。国際線の客室乗務員経験者の方には、フライト・アテンダントの英語の授業を年に何回か担当していただいております。現在特別講師は58名います。

もうひとつ、私たちが取り組んでいる重要な事業に日本ホームスクール支援協会があります。現在、不登校の中学生が、全国で18万～19万人ほどいます。小学生も含めると、潜在的には30万人ほどの

数になるといわれています。「不登校」というのは、統計用語ですが、私自身は、好きな言葉ではありません。主体がだれなのか分かりませんし、「不」と「登校」が結びつかないのです。ただし「登校拒否」の方がわかります。いずれにしても、この「不」がついた途端、日本では学びの場がなくなるという現実があります。こういう人達を支援したいと思い設立したのが、NPO法人日本ホームスクール支援協会です。学校に通わなくても学習する機会はあることを啓発してゆこうというのが活動目標です。

2000年7月に活動を開始して、現在までに入会していただいた方が800家族にのぼります。すでに卒業され、お子さんが大学生くらいになられている家庭も少なくありません。一家でカナダに移住された家族もあります。さまざまな家族を見てまいりましたが、暗く落ち込む状態から1日でも早く抜け出したいので、お母さんたちにティーチングスキルやコーチングスキルを学んでいただくようにしています。また、教材情報を提供したり、会報を発行して情報交換・共有などもしています。見ていますと、皆さん、学校に行っていないことが決してマイナスではない、という境地に達して行くのです。会員同士、お互いを励まし、支え合う、よい関係が築かれており、仲間でピクニックに行ったり、キャラバンツアーを組むなど、元気のよいお母さんもおられ、私の方が励まされることも多々あります。

学校だけが学びのすべてだと考えると、学校に行けないというだけでコンプレックスを持ちがちですが、決してそんなことはない、というのが私たちの考えです。親が元気にならないと、子どもにも悪影響を与えますので、元気にやってゆきましょうと訴え続けて、もう6年目になりました。不登校の子どもを抱える一部の家庭には、学校に対する執着が、かなり根強くあるようですが、どこかでそれを振り切らないといけませんよ、と訴えています。学校と対立しているだけでは前に進みません。学校と5年間も裁判を続けているような家庭の例もありますが、子どもたちにより影響は与えないと思います。

最近うれしく感じていることがあります。今日はどんな学習をどれほどやったとか、美術館に出かけたとか、自宅学習の様子を記録したものを協会に提出していただいております。協会で認証印を押し、それを学校や教育委員会に提出すると出席扱いにしてもらえるケースが増えてきたことです。

#### 小生が信じるもの

#### 学校ってなんですか？

- ・心ゆくまで学ぶことが許される場所
- ・学ぶことを謳歌できる場所
- ・納税者が設置できる場所

さて、そろそろまとめに入りたいと思います。まず、学校とは何か。私自身は、学校とは心ゆくまで学ぶことが許される、学ぶことをエンジョイすることができる場所。そして納税者が設置できる場所だと考えています。

小生が信じるもの

高校ってなんでしょう？

- ・卒業後、一人で情報を集め、課題を見つけ、その時々  
の正解を見つけ出せる力をつける場所
- ・正解を見つけ出す力をつけるために相談相手、議論をする  
相手を得る場所
- ・教育される場所ではなく、自ら学ぶ力をつける場所

高校とは何か。先ほどもいいましたが、高校の次は大学か就職しかありませんので、飛行訓練をする  
ところ。模擬訓練をする場所です。卒業後は、一人で生きていかなければなりません。そのための力  
をつけなければなりません。小学校と中学校との違いは、独立する直前だという意識を生徒と保護者と  
共有していきたいと考えています。よい授業はよい教育であることは疑いのないものだと思いますが、  
よい授業は時として右から左へ抜けていくことがあります。感動した授業を1週間で忘れてしまうこと  
もあります。しかし、自分自身が会得したもの、腑に落ちることがあると、後々まで残ります。教師の  
中には、授業技術といって、50分間の中でいかに優れた授業を行うかを重視する人もいますが、それは  
教室の中の生徒しか見ていないように思います。授業を終えて教室を出た生徒の中に何が残るか、そ  
ういうことを考えた授業をやっていきたい、私自身はそう考えています。先生たちの集まりに出ますと、  
私の考え方はあまり評価を得ませんが、授業の後のことを考えるのが教師の仕事だと思えます。

小生が信じるもの

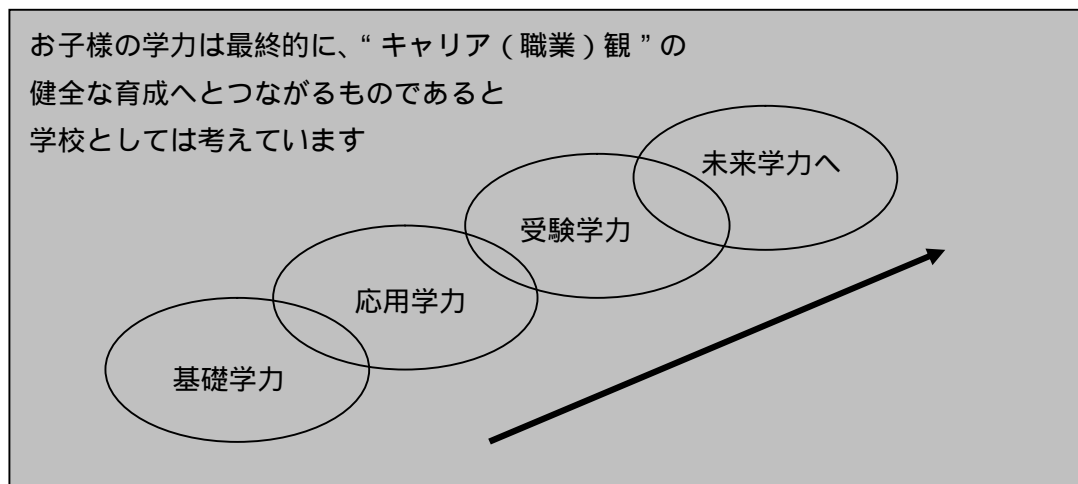
美川特区アットマーク国際高等学校って  
なんのために存在するのでしょうか？

- ・生徒たちが生涯を通して、自ら学ぶ姿勢と学ぶ力をつける  
ために存在します
- ・他人の意思ではなく、自分の意志で学ぶ人、  
つまりインディペンデント・ラーナーになるために存在します

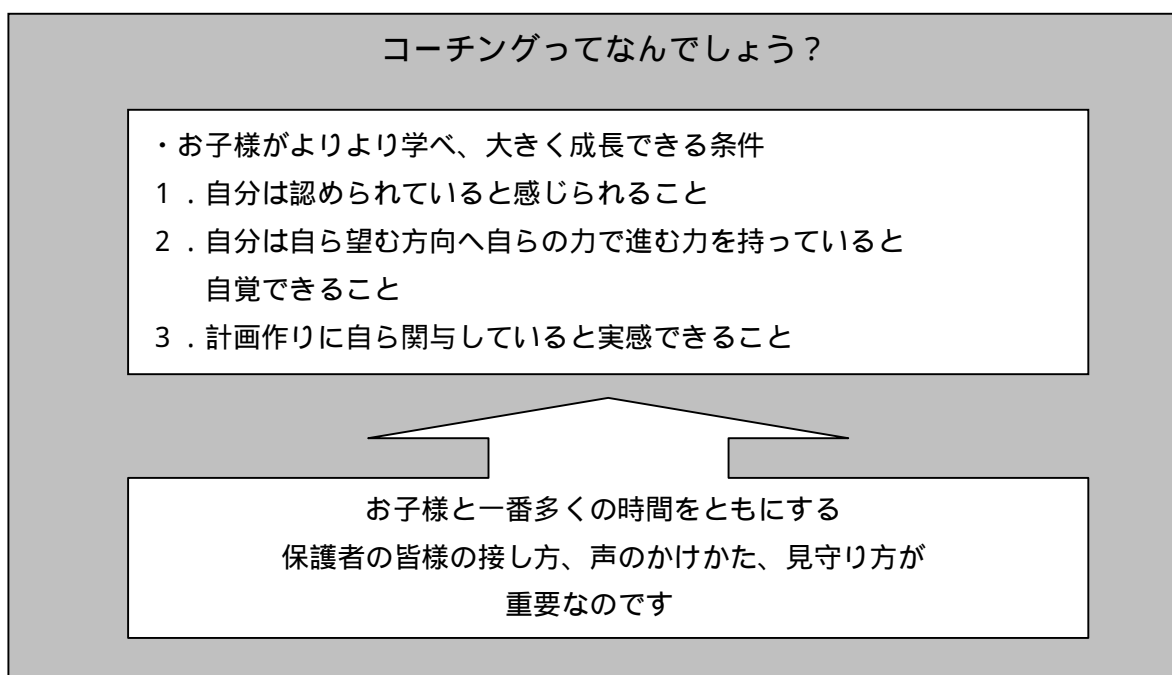
そういうなかで、美川特区アットマーク国際高等学校の役割とは何かを考えました。それが上記に列  
記したものです。先生の評価を得るためだけに学ぶことは、私は評価しません。卒業し、自らの力で飛  
び始めたときにこそ評価されるものだと考えています。また、自分の意思で学んでいるつもりでも、他  
人の意思で学んでいる、学ばされているということはよくあります。私たちのスタッフは、そうならな  
いように指導するよう心がけています。

「インディペンデント・ラーナー」というのは、提携先の学校が掲げた標語です。福沢諭吉は、イン  
ディペンダントを「独立・自尊」と訳しました。これは名訳だと思います。明治までの日本人は、自由

意思で職業を選ぶことなど考えませんでした。福沢は、「学問のススメ」の中で、学び、独立する力を身に付ける。それで初めて人間になるんだよ、とっています。また、インディペンデントとは、独立して、人の世話にならずに、生涯自分の力で生きようになりなさい、そのために慶應義塾が存在するのだとも。現在でも、当てはまることだと思います。



学力を4つに分けてみました。小・中学校時代は、やはり基礎学力が必要ですね。特に、「読み・書き・そろばん」です。ここをおろそかにすると、次のステップである応用力につながりません。日本の場合には、応用学力というのが弱いと思います。また、受験学力を否定してはいけない、というのが、私たちの考えです。時として、自分が思い描いたキャリアに行き着くためには、その過程で受験が待ち受けているので、それには積極的に挑戦すべきだと思います。そして、一番大切なのは「未来学力」です。将来、独立して生きていくために必要なのが、この未来学力です。いま、周囲のだれもが英語、英語といっている時に、一人反旗を翻してスペイン語を学ぶ、こういう姿勢は評価できると思います。周囲に影響されることなく、将来の自分のキャリアを考えて、いま自分が何を学ぶべきかを考えてほしいと思います。



私たちのスタッフになるには、2日間のコーチングの研修を受けていただくことにしています。中級の場合は5日間、上級となると観察員（上級コーチ）が1年越しで指導を行います。

コーチングのポイントで欠かせないポイントが2つあります。一つは、「君は認められている」というふうに関心させること。もうひとつは、「問題解決能力は君自身の中にある」と考えさせること。そう信じて子供に接することが正しい教育の在り方だと考えています。

### お子様がインディペンデント・ラーナーになるための 保護者の皆様の役割

- ・ 子供を批評するのではなく、子どもの個性をほめたたえよう。
- ・ 子供の伴走者・応援者としての役割を避けるのではなく、引き受けよう。
- ・ 子供に対して無意識的に反応するのではなく、意識的に対応しよう。
- ・ 学校以外の学習環境を除外せず、学習とは何かについての視野を広げよう。
- ・ 偏差値による評価をやみくもに支持し、その位置づけで子供を定義することをやめよう。

### お子様がインディペンデント・ラーナーになるための 保護者の皆様の役割

解決策に焦点を当てる。Focus on solutions

目標を設定する。Identify goals

失敗ではなく成功に目を向ける。Track successes not failures

プレッシャーを取り除く。Take the pressure off

#### 失敗するための方法

- ・ 解決ではなく、罰を与えるなど非難に焦点を当てる。
- ・ 目標設定をせず、脅しや説教などをする。
- ・ 成功より失敗に目を向ける。
- ・ 目標貫徹を強制するなど、プレッシャーを与える。

逆説的な表現になりますが、子育てに失敗する方法は4つあります。ひとつは、解決ではなく、罰を与えるなど非難に焦点を当てること。2つ目は、目標設定をせず、脅しや説教などをする。3つ目は、成功より失敗に目を向ける。4つ目は、目標貫徹を強制するなど、プレッシャーを与える。これが失敗するためのコツです。つまりいたるところをほじくり返す手法がありますが、私たちは、それを使いません。むしろ将来に目を向けます。そのために、今何ができるかを考えます。目標設定です。壮大な目標である必要はありません。この1時間で何をするか、いくつの単語を覚えるか、といった程度で結構です。

子供たちを叱ったり、悪いところを指摘ばかりしていると、脳細胞が萎縮してしまうのです。科学的には脳細胞が死ぬといわれます。そうすると新しい発想は生まれません。反対に、子供をほめればほ

めるほど脳細胞は活性化します。新しいアイデアや発想が、どんどん生まれます。会社などの組織にも同じことがいえますね。お前はだめだ、と言われると萎縮してしましますが、この企画書よく書けているなあとほめられれば、もっとよいものを書いてやろうと発奮しますよね。大人でさえそうですから、10代の子供たちは、接し方次第でどんどんよい方に変化します。どんな些細なことでも結構、どんどんほめることです。私たちの学校は通信制なので、めったに生徒は学校へ来ないのですが、こうして接していると、どんどん来るようになります。引きこもりなど、すぐになおります。

私は、自分のやってきたこと、体験から得たことしかお話をすることはできませんが、いくつか、皆さんにもお話することができます。社会は、業を起こす人が変えていくものだということを実感しています。最初に勤めたリクルートという会社の社是は、「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよう」というものです。チャンスは、自ら機会を創り出さない限り生まれません。リクルートのOBには、いまでもよく会うことがあります。自分が何かを始めることによって社会は少し変わる、という意識を持っている人が多いように思います。

規制緩和により、2000年に株式公開基準が変わりましたので、ホリエモンのような人が出現することは、わかる人にはわかっていたと思います。間違った資本主義といえますか、利益・株価至上主義というのは、資本主義の一番歪んだ部分ですよ。そこだけに目を向ける経営者は、いつの世にも出てきます。株式会社とは、もっと尊いものだと思えます。学生時代に、東インド会社の歴史などを学びましたが、人類が発明したもののなかで、株式会社ほど尊いものはないのではないかと思います。志のあるところにお金が集まり、人が集まる。そして業を起こし、利益が上がれば、税金という形で国や政府に入るわけです。それがまた社会資本につながっていきます。こんな素晴らしい制度はないと思えます。株式会社による資本主義は素晴らしい仕組みだと思えます。納税を通して社会に利益を還元するのですから。もちろん、従業員の生活の安定を確保しなければなりませんから、福利厚生も大切ですが、基本的には、利益の40数パーセントが納税という形で社会に還元されることが株式会社の真髄だと思います。こういった意味からも、株式会社が学校経営に参加できるようになったことは、大いに歓迎すべきことだと私は思っています。これからの時代には、税金を払わなくてもよい学校法人は、ごく一部でよいと思えます。到底採算が合わない、しかし、こういう人達(学校)の存在が必要だというのであれば、税金で賄う、納税が免除されてもいいと思えます。今、多くの学校は、税金を納める力、収益力は在ります。特に私たちのような通信制の高校、専門制大学などは、十分に採算が合うと思えます。もちろん経営努力をする必要はあります。ですから、株式会社が学校を運営するのは時代の要請だと思いますし、納税すべきだと思います。この10年間、学校法人の関係者を数多く見てきました。健全経営で立派な経営者もいますが、公私混同で、だれのお金かわかならない、そんな学校経営者も少なくありません。不動産投資に熱心な経営者もいます。そういう学校法人に比べれば、透明性の高い健全な株式会社が学校を運営する方がよい、そんな時代が訪れているのではないかと思います。